第３回

# 松本第二中学校２３回<br>松本県ヶ丘高校第３回卒業　県陵三陵会

## 終戦直前から戦後の混乱期

旧制二中から新制縣ヶ丘への6年間、同じ学び舎で過ごした仲間たちとの絆は強い

■昭和56年４月17日　記念講演：松本県ヶ丘高等学校体育館
祝賀会：東山観光ホテル　法　要：瑞　松　寺

**■記念講演**
**演題：国際政治の中から**
**講師：毎日新聞社編集局次長　小 西　昭 之**

昭和56年、卒業30周年の「母校愛のリレー」に際しては、母校への寄付、記念植樹と合わせ講堂で小西昭之君（後に北米総局長、国際ジャーナリストとして活躍 '94.8没）が、「国際政治のなかから」という演題で講演を行いました。また、瑞松寺で物故者の慰霊法要、東山観光ホテルで恩師を迎えての祝賀会を開催しました。

愛のリレー30周年記念講演会を終え、小西昭之君（前列中央）を囲んで
６名の恩師や同期生らと共に一献

在学中沢山ある思い出の一つが昭和25年６月、高校３年のときに行われた島崎藤村原作、村山知義脚色「破戒」の公演です。登場人物約30名、ほかに子供10数名、上演時間は４時間の大作。演劇部のみならず部のOBをはじめ白虹会、音楽部、そのほか学年を問わず多くの全校有志がスタッフ、キャストなどとして応援体制を敷き、文字通り縣陵挙げてのイベントになりました。当時、大名町の南西角にあった第二公民館で２日間それぞれ昼夜２公演の計４回、心配した観客の入りも初日はほぼ満席、２日目は大勢の立ち見客がでる盛況。学生、市民約5,300人が観たと縣陵新聞にあります。信毎でも「学生演劇として戦後における当市最高の出来ばえ」と好評でした。

**■卒業30年後の寄付**
名取教頭（右手前）に寄付の目録を手渡す同期生代表たち

三陵会松本縣ヶ丘高等学校卒業50周年記念祝賀懇親会（2001.5.19）美ヶ原温泉「翔峰」

平成３年、卒業40周年には物故者慰霊法要と祝賀会を開催し、また、平成13年の卒業50周年に際しては慰霊法要、祝賀会開催と合わせて卒業50周年記念文集「三陵」を編集、会員などに配付しました。なお、三陵会は卒業30周年の前後から松本で毎年総会・懇親会を開催し、昭和63年からは母校や会員の動静などを報ずる「三陵会通信」と題する会報（現在27号）をほぼ毎年作成、会員に配付しています。

我々は太平洋戦争最終盤の昭和20年４月、旧制松本第二中学校に入り“銃後の少国民”として丸刈り頭に戦闘帽、脛には巻脚絆という兵士のような服装で登校しました。同期には松本近辺で生まれ育った者だけでなく、折から激化する空襲を避けて東京方面から信州に疎開してきた諸君も数多くおり、また、その後の学制改革の中で３～４年も上級者で軍務に就き或いは軍関係の学校に進んだ先輩たちが復員、数名が我々の学年に復学されたケースもありました。

入学の４ヶ月後には有史以来の敗戦の憂き目に際会しましたが、一方で「民主主義」という新しい時代の到来に戸惑いながらも、未来に明るい光が差し込んできたことを実感できた世代です。そして昭和23年４月、新制の縣ヶ丘高等学校に移行した同じ学び舎で６年間の長きにわたって勉学に励み、心身を鍛え、交友を深めました。我々の期は地方とは異なる東京の文化や、少し大人の感性など多様な価値観を有する仲間たちとの出会いがあり、多感な年代お互いにぶつかり合い、影響し合って後年各界で活躍する多彩な人材が育まれ、巣立って行ったのではないかと思います。